

－村史こぼれ話 14－

村を襲った自然災害

昨年7. 13集中豪雨による水害はまだ記憶に新しいところですが、弥彦村でもかつて、集中豪雨によって大きな被害がでたことがありました。

昭和42年、8月31日の「新潟日報」紙上によると、『上、中越を襲った集中豪雨は28日朝から下越、佐渡に移り、同夜までに北部山岳地帯に200ミリを越える降雨があり、このため昨年(41年7月17日)の水害で大被害を受けた加治川が増水し、昨年に続いて堤防の破壊を受け被害を大きくした。一方、県央三条・燕・弥彦も大きな被害を受けた。弥彦山麓では排水路からあふれ出た水が農地に流れ、多量の石や砂利が流れ込み、一方、水田は一面が湛水、収穫直前の稲穂が水に埋もれ農家は後始末に苦労した。また弥彦山麓を中心に、山からの流水により中・小河川が氾濫し、弥彦村の住宅は床上浸水65戸、床下浸水157戸…。』と述べられています。

また「広報やひこ」42. 9. 5水害特集号には、『このたびの8. 28集中豪雨による被害はかつてない記録破りのもので、その惨状は全く目を覆うばかりです。本村においては幸い死傷者は免れましたが、村始まって以来の豪雨に見舞われ、家屋の床上、床下浸水を始め、各河川の堤防の決壊、溢水により稲作等に大きな被害が出ました。…被害総額は1億円を超えるものと推定されます。』との記事が載っています。

さらに新潟県消防防災課の資料「新潟県地域防災計画」資料によると、『県全体の被害状況は、死者96人、行方不明38人、重軽傷者471人、住宅全壊1,080戸、半壊2,067戸、一部破壊339戸、床上浸水16,422戸、床下浸水45,066戸、農林、農地、土木、商工等含めた被害総額は1,039億円余であった。』とあり被害の深刻さがうかがわれます。

村の集中豪雨による大きな被害としては、昭和54年に7月28日、8月23日集中豪雨と、ひと夏に2度の水害に遭ったことがありました。

(資料提供：大戸 高橋清さん)